



「開かれた議会づくりで 町政をもっと身近に」

白鷹町議会議長 遠藤 幸一

新年

あけましておめでとうござ
います。町民の皆様には、
健やかに新春をお迎えのことと心から
お慶び申し上げますとともに、日ごろ
より議会活動にご理解とご協力を賜
り、厚くお礼申し上げます。

昨年も、全国各地で集中豪雨や台風
被害などに見舞われました。幸いにし
て我が町には、特筆すべき災害等は無
く安堵しているところです。

さて、少子高齢化の中、本町では第
5次白鷹町総合計画後期基本計画並び
に地方創生の総合戦略等に沿って、日
本の紅（あか）をつくる町推進事業な
ど特色ある各種施策の取り組みを行っ
ております。しかし、最近の出生数を
見ると少子化が急激に進行しており、
これからのまちづくりに大きく係わる
重要な課題となっております。一朝一
夕に解決できる特効薬はなく、総合的
かつ継続的に取り組んでいかなければ
ならないものと感じております。一
方、まちづくり複合施設や新荒砥橋な
どの大規模事業が目に見えて着実に進
んでおります。それらソフトとハード
が調和し効果ある施策が展開されるよ
う、二元代表制の意義を踏まえ議会の
チェック機能を強化していかなければ
なりません。

そのような中、今般、「少子・高齢
社会における対応」など4項目にわた
る政策提言を議会の総意としてまと
め、町長に提出したところです。

また、ホームページで会議録や政務
活動費の内容について公開したり、議
会中継をスマートフォンやタブレット
端末からご覧いただけるようにするな
ど、「開かれた議会」づくりに努めて
おります。そして昨年6月定例会には、
定数を2削減し12名とする議員定数条
例を可決したところであります。

今後も、議会の情報公開や説明責任
を果たし、議員のなり手の確保や町民
の皆様が町政に参画しやすい環境整備
など、さらなる議会の活性化に取り組
むとともに議論を深め、住んでみたい、
住んで良かった、住み続けたいと思わ
れるまちづくりにまい進する所存であ
りますので、なお一層のご支援、ご協
力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、町民の皆様方のご健康とご
多幸を心からご祈念申し
上げ、新年のごあいさつ
といたします。

